

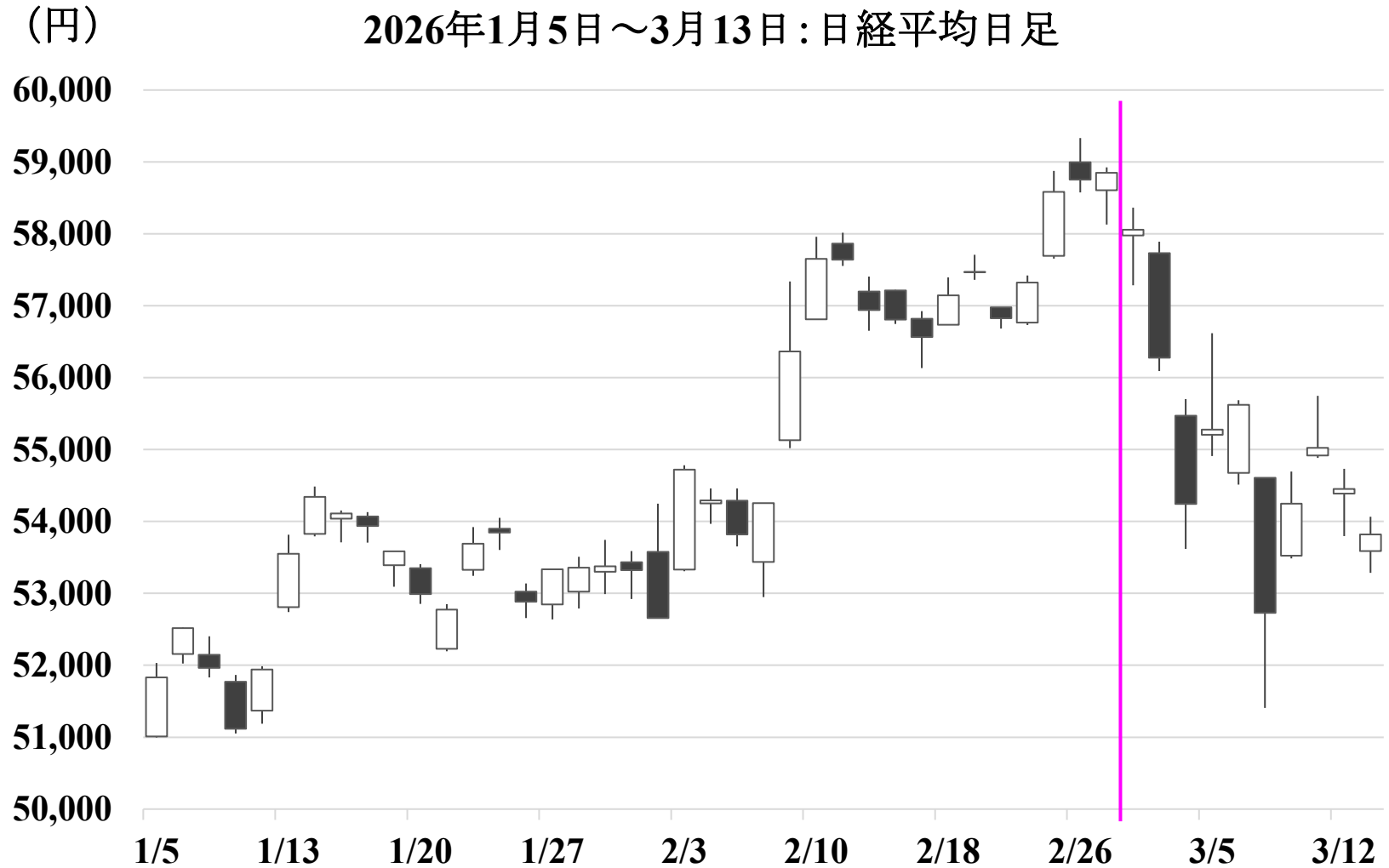


Simplex Institute

# オプションの商品説明

2026年 3月

# 直近の日経平均の動き



# 「オプション買い」の実例

2026年 3月2日(月)11時30分頃:

イラン戦争勃発!!

中東産原油に大きく依存した日本経済を考えれば, 現在 58,000円の水準の日経平均は 10%下落し 52,000円程度にまで売り込まれてもおかしくない  
3月限権利行使価格 52000円のミニ・プットの価格が 150円だったので  
それを 1枚購入(購入代金 = 15,000円 = 150 × 100)し相場下落を待った

2026年 3月9日(月)11時00分頃:

日経平均は予想通り下落し51,500円近辺, 行使価格 52000円のミニ・プットの  
価格は 1,720円となったので売却し, 利益は

$$(1,720 - 150) \times 100 = 157,000 \text{円}$$

購入代金 15,000円に対する収益率は 1,046%

1週間の稼ぎとしては悪くない

# 日経225オプションとは

日経225オプションを決めるもの

- (1) 「コール」と「プット」の別
- (2) 限月 (ミニオプションは「X月第Y週限月」)
- (3) 権利行使価格 (単に「行使価格」)

オプションは株式などと全く同様に「売買」できる  
すなわち

$$\text{損益} = (\text{売った価格} - \text{買った価格}) \times \text{数量}$$

ただ、先物と同様に「満期日 (SQの日)」があつて、その日の最終決済価格の決め方がやや特殊なだけ (次ページ以降で説明)

# 満期日でのプットの価格

満期日でのプットの決済価格は

- (1) SQ値が行使価格より小さいなら, 行使価格 - SQ値: 権利行使
- (2) SQ値が行使価格以上なら, 0 (ゼロ): 権利放棄

例: 満期日前に行使価格 52,000円のプットを価格 270円で買う(売る)  
満期日において

- (1) SQ値 = 50,500円の場合, プットの価格 =  $52,000 - 50,500 = 1,500$ 円
  - プット買いの損益 =  $1,500 - 270 = +1,230$ 円
  - プット売りの損益 =  $270 - 1,500 = -1,230$ 円
- (2) SQ値 = 53,000円の場合, プットの決済価格 = 0円
  - プット買いの損益 =  $0 - 270 = -270$ 円
  - プット売りの損益 =  $270 - 0 = +270$ 円

# プットのSQ決済体験シミュレーション

スマホで下記の QRコードを読み取りましょう



※「QRコード」は株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

# 5日後の日経平均SQ値を予想しよう

## オプション購入

参加者001

売買受付中

所持金: 1,000円

ニックネーム

更新

### プット

オプション

価格

数量

P53,000

300円

-

0

+

P52,500

100円

-

0

+

P52,000

40円

-

0

+

合計代金

0円

購入する

数量を選んでください。

現在、日経平均は 53,000円であり、5日後のSQ値は今より低いと予想しプットを買う

購入可能なプットオプションは

**P53000, P52500, P52000の3種類**

例:P52000はSQ値が 52,000円を下回ったら  
その分利益を受け取れるプットオプション

所持金 1,000円の範囲内で好きなだけ購入可  
(「購入する」ボタンは1回のみしか押せない)

# 満期日でのコールの価格

満期日でのコールの決済価格は

- (1) SQ値が行使価格より大きいなら,  $\text{SQ値} - \text{行使価格}$ : 権利行使
- (2) SQ値が行使価格以下なら, 0 (ゼロ): 権利放棄

例: 満期日前に行使価格 53,000円のコールを価格 250円で買う(売る)  
満期日において

- (1) SQ値 = 54,400円の場合, コールの価格 =  $54,400 - 53,000 = 1,400$ 円
  - コール買いの損益 =  $1,400 - 250 = +1,150$ 円
  - コール売りの損益 =  $250 - 1,400 = -1,150$ 円
- (2) SQ値 = 52,500円の場合, コールの価格 = 0円
  - コール買いの損益 =  $0 - 250 = -250$ 円
  - コール売りの損益 =  $250 - 0 = +250$ 円

# コールのSQ決済体験シミュレーション

スマホで下記の QRコードを読み取りましょう



※「QRコード」は株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

# 5日後の日経平均SQ値を予想しよう

## オプション購入

参加者003

売買受付中

所持金: 1,000円

ニックネーム

更新

コール オプション	価格	数量
C54,000	40円	- 0 +
C53,500	100円	- 0 +
C53,000	300円	- 0 +

合計代金

0円

購入する

数量を選んでください。

現在、日経平均は 53,000円であり、5日後のSQ値は今より高いと予想しコールを買う

購入可能なコールオプションは

**C53000, C53500, C54000の3種類**

例: C54000はSQ値が 54,000円を上回ったら  
その分利益を受け取れるコールオプション

所持金 1,000円の範囲内で好きなだけ購入可  
(「購入する」ボタンは1回のみしか押せない)

# 日経225ミニオプション取引制度

- (1) 満期日:各月の第2金曜日(毎週金曜日)
- (2) 権利行使価格:250円もしくは125円刻み
- (3) 呼値:300円以下は1円,300円超は5円
- (4) 取引単位:オプション価格の100倍
- (5) 取引最終日:満期日前営業日
- (6) 証拠金:「売建て」には必要,「買建て」は不要で買付代金のみ必要
- (7) 値洗い:毎日評価損益の授受  
評価損益は日をまたがない
- (8) 決済:転売または買戻し,SQ決済(権利行使・権利放棄)

# OTM, ATM, ITM

オプションの権利行使価格と原証券との位置関係を示す言葉

日経225オプションでは

(1) コールであれば、行使価格を今の日経平均と比べて

行使価格  $>$  日経平均 のとき **OTM**(アウト・オブ・ザ・マネー)

行使価格  $\doteq$  日経平均 のとき **ATM**(アット・ザ・マネー)

行使価格  $<$  日経平均 のとき **ITM**(イン・ザ・マネー)

(2) プットであれば、行使価格を今の日経平均と比べて

行使価格  $<$  日経平均 のとき **OTM**(アウト・オブ・ザ・マネー)

行使価格  $\doteq$  日経平均 のとき **ATM**(アット・ザ・マネー)

行使価格  $>$  日経平均 のとき **ITM**(イン・ザ・マネー)

# 満期日以外でのオプション価格

いろいろと勉強すればオプションの「理論価格」を計算できるようになるが

- (1) 理論価格を計算するには、満期日までの日経平均の予想ボラティリティを決める必要がある(そんなのわかるはずはない!!)
- (2) しかも市場では、(苦勞して求めた)理論価格で売買されていない!!

というわけで、「市場価格」を基準とするしかない!!

だが、「市場価格がいつも正しいとは限らないから信頼できない、ずる賢い投資家が価格を操作しているかもしれない」と考える人もいるはず  
それならば、「先物価格やソニー株の市場価格なら信頼できるのか?」とあらためて考えてみると、全く同じ問題であることに気がつくはず

→ やはり「市場価格」を基準とするしかない

# オプション取引の必要性・優位性

- オプション取引はメニューが豊富

先物取引は「日経平均の騰落」からしか利益を追求できない

オプション取引は「日経平均の騰落」だけではなく、「時間変化」や「ボラティリティ変化」などからも利益を狙うことが可能

→ さまざまな「相場観」に応じたポジションで相場と戦える

- ライフスタイルや性格に合わせて取引可能

「仕事の都合で市場を見ることが難しい」

「市場を見ているとついつい手を出していらぬ損失を出してしまう」

というような人でも、自分に向いた相場との付き合い方を見つけることが可能

→ 極端な場合、「月に1回しか市場を見ない」ような状況でも可能な戦略がある

# 「宝くじオプション」の実例

2026年 3月11日(水)12時35分頃:

日経平均は毎日大きく乱高下し, 現在 55,500円の水準  
基調は「弱い」と読んでいるので「日経ミニを売ろう」と思うが, 最近の先物は  
一日で 2,000円程度上下するので 数万円の損失を覚悟する必要がある  
それなら, 翌々日(3月13日)満期を迎える行使価格 53500円のミニ・プットが  
13,600円で買えるので, それを 1枚購入して SQ日を待った

2026年 3月13日(金):

2日間で日経平均は予想通り下落し, SQ値は 52,909.45円となった  
行使価格 53500円のミニ・プットの最終決済価格は

$$53,500 - 52,909.45 = 590.55 \text{円 (売買代金は } 59,055 \text{円)}$$

となり, 購入代金 13,600円に対する利益は

$$59,055 - 13,600 = 45,455 \text{円}$$

となり, 2日間の稼ぎ(収益率 = 334%)としてはまあまあ

# さらなる勉強のために

大阪取引所から公開されているサイト

『OSE先物・オプション シミュレーター』

( <https://www.fopstudy.com/> )

- (1) 無料で先物・オプション取引を体験
- (2) ゲーム感覚で楽しく学習
- (3) 本格的な取引画面
- (4) 解説動画付きで分かりやすい

# 講師プロフィール

伊藤祐輔(いとうゆうすけ)

株式会社シンプレクス・インスティテュート 代表取締役

1976年早稲田大学工学部数学科卒業, 1983年同大学大学院理工学研究科後期課程修了. 偏微分方程式論の研究活動のかたわら数学教育を続け, 1989年ソロモン・ブラザーズ・アジア証券(現シティグループ証券)に入社. 株式部長, 株式デリバティブトレーダーとしてマーケットにかかわる. 1999年インドスエズ・ダブリュ・アイ・カー証券(現クレディ・アグリコル証券)に移りトレーディングデスクの再構築を行い, 2000年(株)シンプレクス・インスティテュート代表取締役就任.

---

## 免責事項

当資料の内容は, 投資判断の参考として投資一般に関する情報提供を目的としたものであり, 投資の勧誘を目的としたものではありません.

投資に関する最終的な決定は, ご自身の判断と責任においてなさるようお願い致します. 株式会社シンプレクス・インスティテュートでは, 当該情報に基づいて被ったいかなる損害についても, 一切の責任を負うものではありません.

**無断転載を禁ず**

当資料の全部, または一部を無断で複写・複製・転載, および磁気・高記録媒体に入力することなどは, 著作権法上の例外を除き禁じられています.

株式会社シンプレクス・インスティテュート

〒105-6223 東京都港区愛宕 2-5-1

愛宕グリーンヒルズMORIタワー23階

URL: <http://www.simplexinst.com>

# 参加者アンケート



※「QRコード」は株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

## ご注意事項

- 本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客さまが損害を被ったとしても当社、および情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製、または販売等を行うことは固く禁じます。
- 必要証拠金額は当社証拠金(発注済の注文等を加味した証拠金×100%)－ネット・オプション価値(Net Option Value)の総額となります。
- 当社証拠金、およびネット・オプション価値(Net Option Value)の総額は発注・約定ごとに再計算されます。
- 証拠金に対する掛け目は、指数・有価証券価格の変動状況などを考慮のうえ、与信管理の観点から、当社の独自の判断により一律、またはお客さまごとに変更することがあります。
- 「HYPER先物コース」選択時の取引における建玉保有期限は原則新規建てしたセッションに限定されます。なお、各種設定においてセッション跨ぎ設定を「あり」とした場合には、プレクローリング開始時点の証拠金維持率(お客さま毎の証拠金掛目およびロスカット率設定に関わらず必要証拠金額は証拠金×100%で計算)が100%を上回っていれば、翌セッションに建玉を持ち越せます。「HYPER先物コース」選択時は必要証拠金額は証拠金×50%～90%の範囲で任意に設定が可能であり、また、自動的に決済を行う「ロスカット」機能が働く取引となります。
- 先物・オプションの証拠金については日本証券クリアリング機構のWEBサイトをご覧ください。
- 指数先物の価格は、対象とする指数の変動等により上下しますので、これにより損失を被ることがあります。市場価格が予想とは反対の方向に変化したときには、比較的短期間のうちに証拠金の大部分、またはそのすべてを失うこともあります。その損失は証拠金の額だけに限定されません。また、指数先物取引は、少額の証拠金で多額の取引を行うことができることから、時として多額の損失を被る危険性を有しています。
- 日経平均VI先物取引は、一般的な先物取引のリスクに加え、以下のような日経平均VIの変動の特性上、日経平均VI先物取引の売方には特有のリスクが存在し、その損失は株価指数先物取引と比較して非常に大きくなる可能性があります。資産・経験が十分でないお客さまが日経平均VI先物取引を行う際には、売建てを避けてください。

## ご注意事項

- 日経平均VIは、相場の下落時に急上昇するという特徴があります。
- 日経平均VIは、急上昇した後に数値が一定のレンジ(20~30程度)に回帰するという特徴を持っています。  
日経平均VIは、短期間で急激に数値が変動するため、リアルタイムで価格情報を入手できない環境での取引は推奨されません。
- 指数オプションの価格は、対象とする指数の変動等により上下しますので、これにより損失を被ることがあります。なお、オプションを行使できる期間には制限がありますので留意が必要です。買方が期日までに権利行使又は転売を行わない場合には、権利は消滅します。この場合、買方は投資資金の全額を失うこととなります。売方は、市場価格が予想とは反対の方向に変化したときの損失が限定されていません。また、指数オプション取引は、市場価格が現実の指数に応じて変動しますので、その変動率は現実の指数に比べて大きくなる傾向があり、場合によっては大きな損失を被る危険性を有しています。
- 未成年口座のお客さまは先物・オプション取引口座の開設は受付いたしておりません。
- 「J-NETクロス取引」で取引所立会市場の最良気配と同値でマッチングする場合、本サービスをご利用いただくお客さまには金銭的利益は生じないものの、SBI証券は委託手数料を機関投資家から受け取ります。
- J-NETクロス取引の詳細は適宜修正される可能性がありますのでご注意ください。

## 金融商品取引法等に係る表示

本セミナーでは、セミナーでご紹介する商品等の勧誘を行うことがあります。これらの商品等へのご投資には、商品毎に所定の手数料等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等による損失を生じるおそれがあります(信用取引、先物・オプション取引、商品先物取引、外国為替保証金取引、取引所CFD(くりっく株365)、店頭CFD取引(SBI CFD)では差し入れた保証金・証拠金(元本)を上回る損失が生じるおそれがあります)。商品毎に手数料等及びリスクは異なりますので、詳細につきましては、SBI証券WEBサイトの当該商品等のページ、金融商品取引法等に係る表示又は契約締結前交付書面等をご確認ください。

### 金融商品取引法等に係る表示

[https://search.sbisecc.co.jp/v2/popwin/info/home/pop6040\\_torihikihou.html](https://search.sbisecc.co.jp/v2/popwin/info/home/pop6040_torihikihou.html)

商号等:株式会社SBI証券 (金融商品取引業者、商品先物取引業者)

登録番号:関東財務局長(金商)第44号

加入協会:日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人 日本STO協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人日本暗号資産等取引業協会